

11/15 身近なものを工夫でおいしくやわらかく
「やわらか介護食 おせない工夫教室」を開催しました



▲和気あいあいとした雰囲気での調理を行う参加者の皆さん

愛南もぐもぐサポートチーム主催による「やわらか介護食 おせない工夫教室」を、町内のヘルパーや看護師などを対象に開催しました。愛南もぐもぐサポートチームは、「最期まで口から食べる町 愛南町」の実現のために、県立南宇和病院が中心になって町内の口腔医療関係者や福祉職、それをサポートする事業所に声をかけて活動しています。

今回の教室には14人の参加者が集まり、嚥下食を調理した後、県立南宇和病院摂食・嚥下認定看護師の藤澤ゆう子さんから「家庭でおいしく食べられるための工夫」に関する講話がありました。参加者からは「食べる楽しみを、作り方次第で工夫できると思った」といった感想が聞かれ、参加者同士の交流にもなりました。

12/5 南宇和ライオンズクラブ「ありがとうはがきメッセージ企画」
平城小学校ではがき贈呈式



愛媛
CATV
動画



▲贈呈式に参加した皆さん（平城小学校の児童・校長と南宇和ライオンズクラブ役員、城辺郵便局長）

南宇和ライオンズクラブによる「ありがとうはがきメッセージ企画」のはがき贈呈式が平城小学校で行われました。この企画は、伝統ある「はがき・手紙文化」に親しんでもらうため、毎年実施されており、今冬は町内の小学校5・6年生236人（久良小学校のみ3年生1人を含む）にはがきが贈られました。

贈呈式には南宇和ライオンズクラブの倉田貴一^{たかいち}会長ほか役員、城辺郵便局の竹村和也^{かずや}局長が出席し、町内の児童代表として校長室に集まった平城小学校の児童3人に年賀はがきを手渡しました。はがきを受け取った児童たちは、「お世話になった友達に送ろうと思います」など、送る相手を思い浮かべて笑顔を見せました。

12/18 ふるさとに思いを届ける応援募金
明治安田生命保険相互会社「私の地元応援募金」目録贈呈



愛媛
CATV
動画



▲目録を受け取った清水町長（左）と感謝状を受け取った高橋所長（右）

明治安田生命保険相互会社から町へ贈られる「私の地元応援募金」の目録贈呈式が行われました。

開会に当たり、明治安田生命保険相互会社高知支社土佐中村営業所の高橋昭博^{あきひろ}所長は、地元応援募金の概要を説明した後、「この募金は、明治安田生命グループの全従業員が出身地など縁のある地域を指定して行う任意の募金に、会社拠出の寄付を上乗せしてお届けするものです。地元がいつまでも活気あふれる場所であることを願い、今後も支援を継続してまいります」と述べました。

清水雅文^{まさふみ}町長は、感謝の言葉を伝えるとともに「この募金はスポーツを通じた町民の健康づくりやスポーツ環境の改善等に活用させていただきます」と丁寧に目録を受け取りました。

12/20 実践的な訓練で災害時の対応力を高める 県・市町災害対策本部合同運営訓練(図上訓練)を実施



▲役場本庁3階大会議室に設置された愛南町災害対策本部の様子

県災害対策本部と県内市町が合同で行う「令和5年度県・市町災害対策本部合同運営訓練」が行われました。訓練は、19日(火)の午前9時に高知沖を震源とするマグニチュード9.1の地震が発生したことにより、県内で最大震度7を観測したという想定の下で実施されました。

訓練の方式はブラインド方式(事前に訓練シナリオを参加者に明かさぬ方法)で行われました。災害対策本部事務局のほか、総務・福祉・生活環境・産業建設・教育・消防の6つの対策部に分かれたプレーヤーと呼ばれる職員(災害対策本部員等)は、次々に飛び込んでくる被害情報や関係機関からの連絡に対応しながら、大規模な災害が起こった際の対応力を養いました。

12/21 荷物を運ぶということは、命をつなぐこと ヤマト運輸株式会社と災害時の物資配送に関する協定を締結



愛媛
CATV
動画



▲協定書に署名した小坂執行役員(左)と清水町長(右)

ヤマト運輸株式会社との「災害時における支援物資の配送及び物資集積拠点の運営に関する協定」の締結式が行われました。この協定は、町内で災害が発生、または発生するおそれが生じた場合に、円滑な物資供給を行い住民生活の早期安定を図るため、物資の配送および集積拠点の運営に関してあらかじめ必要な事項を定めるために締結しました。

ヤマト運輸株式会社中四国統括の小坂正人執行役員は、重要な業務に携わる使命感を述べるとともに「町内にあります当社の愛南営業所には、町内で生活する者が多くいます。この締結を機に、災害時のみならず町全体の魅力を全国に発信していくことにご協力できればと考えています」と協定に託す思いを述べました。

12/25 年末年始における交通安全のシンボル 愛南警察署にジャンボ門松を設置



愛媛
CATV
動画



▲師走の冷たい風にも負けずジャンボ門松を完成させて皆さんで記念撮影

南宇和交通安全協会城辺支部と城辺中学校生徒5人が協力して愛南警察署にジャンボ門松を設置しました。

平成12年から行っているジャンボ門松の設置は今年で24回目を迎え、1年を締めくくる大切な行事となっています。今年は初の試みとして城辺中学校の生徒が5人参加しての実施となり、警察署で作業を行いました。中学生たちは興味津々に手順を習い、世代間交流を図りながら賑やかに作業を進めました。見事完成した警察署のジャンボ門松は、1月15日(月)まで飾られました。

愛媛県中学駅伝競争大会 御荘中学校男女ともに大健闘!



【総合成績】

祝 男子：1時間3分18秒(46チーム中 7位)
女子： 46分35秒(39チーム中 8位)

11月18日(土)に新居浜市東雲競技場で行われた「愛媛県中学駅伝競争大会」において、御荘中学校駅伝チームが男子7位・女子8位のアベック入賞を果たしました。

8月下旬から練習を開始した選手たちは、苦しい時も仲間同士で声を掛け、鼓舞し合いながらチーム力の強化を目指しました。

大会当日は気温が低く風も強いコンディションの中、男子は18kmを6人で、女子は12kmを5人でタスキをつなぎ、男女ともに8位以内入賞という目標を達成しました。

男子キャプテンの大塚^{けんた}^あさんは、「男女ともに全員が持てる力を発揮して入賞につながり、とても嬉しい」と笑顔で話しました。女子キャプテンでアンカーを務めた古川^{なつは}^な夏羽さんは、「厳しいコンディションにも負けず、全員が思いを一つに走りぬくことができて良かった」と大会を振り返りました。

愛媛県小学生インドアソフトテニス選手権大会で2ペアが入賞!

11月26日(日)に今治市で開催された「令和5年愛媛県小学生インドアソフトテニス選手権大会」において篠山ソフトテニスクラブの岡原^{あみ}^り梓実・藤岡^{りん}^り凜ペアが優勝、徳原^{ちひろ}^ち千尋・青木^{ゆうな}^う優奈ペアが5位入賞を果たしました。

この大会は愛媛県小学生ソフトテニス連盟のランキングにより推薦されたペアのみが出場できます。参加した篠山ジュニアの選手たちは慣れない屋内での試合にも関わらず果敢にポイントを取り続け、1月20日(土)に香川県で開催される四国大会(上位6位までが四国大会出場)への出場権を勝ち取りました。



愛媛
CATV
動画



【大会成績】

祝 岡原^{あみ}^り梓実・藤岡^{りん}^り凜ペア 優勝
徳原^{ちひろ}^ち千尋・青木^{ゆうな}^う優奈ペア 5位

投稿写真

読者(町民)の皆さまが撮影した写真を掲載します。

写真募集中!

掲載方法は町ホームページからご確認ください。



「霧の中を走る」

▶ 撮影者: 吉弘^{そうじろう}^ろ宗二郎さん ▶ 撮影場所: 増田

一本松は小さな盆地なので霧に包まれることがよくあります。12月6日(水)の国道56号線増田バイパス。100m先が見えないくらいの霧の中からライトを付けた車が出てきます。不思議な光景です。



防災・減災への意識向上を図る作品を表彰

愛媛
CATV
動画

作品の制作を通じて土砂災害防止についての理解や関心を深めることを目的に、次世代を担う小・中学生を対象として開催された「土砂災害防止に関する絵画・作文」において、柏小学校6年生の木口惣葵さんが絵画部門で愛媛県砂防協会会長賞を受賞しました。

12月22日(金)に柏小学校で行われた授与式では、愛媛県砂防協会副会長の清水雅文町長から木口さんへ表彰状が手渡されました。

防災学習の中で得た学びが生かされた木口さんの作品は、増水して荒れた川の水の様子が簡潔に描かれ、人物の表情から緊張感・切迫感が見た人に伝わりやすく、言葉にも訴える力がある点が高く評価されました。



いつ発生するか分からない土砂災害について、これからも学びを深めていきたいです。

【愛媛県砂防協会会長賞】



柏小学校 6年 木口 惣葵さん

地域おこし協力隊 活動日記

「持続可能な観光」って何？

水産課地域おこし協力隊の柳田亮介りょうすけです。昨年末でちょうど任期の半分を終え、残り1年半となりました。

昨年秋ごろから今年1月にかけて地域活性化やツーリズムに関するたくさんの研修や勉強会に参加しました。その中で、特に重要性を感じた「持続可能な観光(サステナブルツーリズム)」について少し触れてみようと思います。

「持続可能な観光」では何のことやら分かりませんので少し噛み砕くと『来訪者・産業・環境・受け入れる地域のニーズに適合しつつ、現在と将来の経済・社会・環境への影響を十分に考慮した観光』となります。いやこれでもまだ分かりにくいですね。では、これでどうでしょう。

『無理・無駄な開発はせず、大自然を活かし(自然環境、財政が持続可能)、旅行者がお金を落としてくれて(経済・産業が持続可能)、満足してくれて(旅行者が次の旅行者を呼ぶ)、町が賑わい、笑顔で旅行者を迎えられる(町民生活が持続可能)、こういう観光を提供しましょう』、多少は分かりやすくなったでしょうか。

実は「持続可能な観光」というモノには国際



的に定められた認証があり、観光に関するさまざまな物事に条件や基準が設けられています。

日本人は、伝統的に「自然との共生」という持続可能な生活をしてきた民族であるせいか、「持続可能性」をわざわざアピールする必要などないと考えがちです。しかしながら、インバウンドの取り込みなどを狙うのであれば、しっかり条件を整えてちゃんとアピールすることが必要になってくるんですね。豊かな自然と海山の幸に恵まれた愛南町は、無限の可能性を秘めていることは間違いありませんから。

私も勉強を始めたところではありますが、こういうことに興味のある方がいらっしゃれば、ぜひ一緒に勉強したいと思いますのでお声掛けくださいね!